

会 議 議 事 録（抄）

会 議 名	2025年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 IoT+AI 科 教育課程編成委員会
開 催 日 時	2025 年 7 月 18日(金) 15 時 30 分～17 時 30 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1101 教室
参 加 者	<外部委員:2名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 田中 正吾 (ワンフットシーバス) 高堂 博司 (ウイングレッド・システムズ株式会社) 岡山 義光 (株式会社産業連携機構九州 / My-IoT コンソーシアム) <内部委員> 藤原 瑞卿 (専門学校東京テクニカルカレッジ IoT+AI 科 科長)
概 略	<系別分科会> (第二部) - 挨拶 1 年生についての報告 (1・2 期) - 属性:国別の性别人数 - フレッシュマン研修 - 授業内容 - 履修判定試験状況 2 年生についての報告 (1・2 期) - 授業内容 - 履修状況と就職状況 - 学科運営 4 期制 - 高専授業(募集関係) - ディスカッション - AI リテラシー - 生成 AI による思考停止恐れ - IoT 実践プロジェクト調整が必要 - 日本人学生数確保と留学生支援強化が今後の課題 - 決定事項 8 月 25 日に未来会議を開催予定 (MT プランニングとのコラボレーション) 10 月 25 日に学園祭のミニゆるメカトロを開催予定 - AI リテラシーの教育の方向
討 議 内 容	(一)1 年生の状況報告 藤原: では最初に、1 年生の状況についてご報告します。今年度は 27 名で、そのうち日本人は 3 名のみ。あとは全員、9 カ国からの留学生です。構成としては男性が 23 名、女性が 4 名と、性別のバランスも偏っています。 田中: ここ数年、日本人学生の比率が少しずつ減ってきていますね。特に今年は目立ちますね…。 岡山: 最近、ミャンマーからの学生が増えている印象があります。社会情勢や進学を受け入れ制度の影響ですかね？ 藤原: そうですね。実際、ミャンマー出身者の数は去年の 2 倍になっています。年齢も幅広く、20 歳～28 歳ぐらいまでいます。入国の背景としては、日本政府の留学生受け入れ政策が大きいです。 高堂: なるほど…。ただ、やはり気になるのは日本語力の部分ですよね。授業についていけてますか？

藤原：
そこが一番の課題ですね。日本語理解が不十分なため、説明しても肝心なところで「わかってない」ことが多いです。記述問題が特に苦手で、ほとんど空欄というケースも見られます。

(二) 教育活動と成果

藤原：
一方で、成果もいくつか出ています。スカラシップに 2 名が選ばれ、奨学金を受給しました。
田中：
それはすごいですね。本人たちも自信になったんじゃないですか？
藤原：
はい、モチベーションが上がったようで、積極的にプロジェクトにも参加しています。あと、FMT のドローン研修も今年は充実していて、3 チームに分けて競技的な要素を取り入れました。B チームが優勝でしたね。
岡山：
ドローンって今の子どもたちには魅力的ですね。技術だけでなく、チームで協力する力も育ちますし。
高堂：
IoT 展示会の見学も好評でしたよね。「こんな会社があるんだ！」って目を輝かせてた学生もいました。
藤原：
11 月には制作発表会も控えています。さらに、「緩め展示会」にも出展し、学外でも自分たちの作品を発表できる機会を作っています。

(三) 学習面での課題

高堂：
出席率は良いと聞きましたが、成績面はどうですか？
藤原：
出席率は 97.6%と素晴らしいんですが、不合格者が延べ 46 名出ています…。日本語の読解がボトルネックになっていて、特に記述式問題で得点できません。
田中：
問題文が読めないというのは根深いですね…。計算やロジックは理解できても、日本語の壁が…。
岡山：
深夜のアルバイトが影響してる学生もいそうですね。朝、明らかに眠そうな学生もちらほら…。
藤原：
それに加えて、AI 翻訳ツールに頼りすぎて、自分で日本語を書こうとしない学生もいます。便利ですが、学習効果は逆に下がっていますね。

(四) 2 年生の状況報告

藤原：
2 年生は比較的落ち着いていて、真面目に取り組む学生が多いです。今年は UX デザインの授業や、ディープラーニング体験授業を導入しました。
高堂：
ドローン研修もありましたよね？Python を使って飛行制御とか。
藤原：
そうです。チームでプログラミングして、エレベーター可視化システムなども完成度が高かったです。完全に実践寄りの教育にシフトしています。
田中：
内定者は 7 名と聞きましたが、それは例年より多いのでは？
藤原：
はい。ただ、面接で国籍を理由に不採用となるケースがまだあります。今後の改善点です。

(五) 新カリキュラム(4 期制)の概要

藤原：
4 期制への移行に伴い、科目の再編を行います。IT 戦略や法規などを削除し、AI・IoT の分野を強化します。HTML・CSS も削除して、統計や自然言語処理、VR などの新技術に対応した内容へ。

高堂：
それは大きな変化ですね。特に統計や NLP の導入は、AI 分野に進みたい学生には心強いです。
田中：
IoT 関連の授業時間も増えるんですね？
藤原：
はい。教員も内部に変更し、より現場に近い形で授業を設計します。
岡山：
宿泊研修や学園祭の復活もいいですね。学生のアウトプットの場を広げるのは重要です。

(六) 重要課題に関するディスカッション

(1) AI 教育の課題

藤原：
生成 AI の使い方にも工夫が必要です。ChatGPT など「考えること」を放棄する学生が増えています。
田中：
私も「コピペして終わり」のレポートを何度か見ました…。考えた痕跡がないんです。
藤原：
ハーバードの研究で、AI 使用グループの脳活動が低下したという報告もありますから、やはり“使い方”が重要ですね。
田中：
“コパイロット的に使う”という考え方が大切ですね。判断するのは人間だと意識させたいです。

(2) IoT 教育の見直し

藤原：
IoT プロジェクトのアイデアが壮大になりがちです。「自動農業システム」など、実装までたどり着けない案もあります。
田中：
段階的な導入がいいですね。まずは「スマート植木鉢」ぐらいから。
高堂：
地域の企業や、他の専門学校と連携したプロジェクトも今後取り組みたいですね。

(3) 留学生の支援と就職対策

岡山：
やはり日本語力、特に読解とマナーの理解が鍵ですね。これができると面接通過率も上がるはず。
藤原：
国別の特性に合わせたメンタリングも効果があるかもしれません。マイナビと連携した N3 面談も導入します。

(4) 今後の取り組み

藤原：
日本人学生の確保は喫緊の課題です。今は VRChat など新しい媒体での広報手段を模索中です。
高堂：
日本語学校との連携ももう一度見直したいですね。TA 制度の導入で教員の負担も減らせそうです。
藤原：
次回の会議は 12 月を予定しています。それまでに、Discord などを使った多言語対応のネットワークも試してみます。

🟢 議事まとめ(要点)

- ・ 1 年生は多国籍で意欲的だが、日本語力の課題が大きい
- ・ 2 年生は真面目で成果が出ているが、基礎力に課題あり
- ・ 新カリキュラムは AI・IoT 特化型に大幅刷新
- ・ AI 活用は「思考の補助」としての教育が必要
- ・ IoT 教育は段階的かつ身近な題材からスタート
- ・ 留学生支援と日本人学生の確保を両軸で強化
- ・ 次回会議は 12 月開催予定

